第２回半田市男女共同参画審議会　議事録

開催日時	令和７年９月１０日（水）１２時～１４時
開催場所	半田市役所　会議室３０３
次　　第	１．あいさつ ２．議題 （１）令和６年度みんなが輝くチャレンジプラン基本施策評価表に基づく市民評価について ３．その他
出 席 者	会　長：末盛　慶 委　員：板倉恵美、岩浪房子、鈴木靖隆、岡戸秀一、斎藤由華、杣川智美、岩本佳大、榊原衣麻 事務局：市民協働課長　渡辺富之、森幸、小坂優勢

議事録

２－３　男女共同参画の視点からの防災について	
委員	避難所運営の地域格差がある。防災士の資格取得支援が市からあると良い。
委員	中間目標を達成している。
委員	目標値に達成している。新たな運営委員会で成功している事例があることを他の委員会でも広げていけると良い。
委員	中間目標を達成している。
委員	女性への教育は男女の役割が違うから教育する必要がないことが本当に良いのか。男性に対し、女性団体が入ってくることを何らかの形で伝えることが必要。実際に女性にどのように届いているか。
委員	備品の備蓄のみではないのかと思う。
委員	自治区での防災訓練は地域差がある。 訓練に関わっている人は高齢化しており、参加していない若い世代は分からないことが多い。 誰にでも分かる目線での説明が必要。
会長	２－３については評価はＡが４名、Ｂが３名、Ｃが２名。平均するとＢ評価となる。名古屋市の防災フェアではたくさんのキッチンカーを呼び集客をしている。楽しく防災の話をすることへの参考にできる。
３－１　女性・子ども・高齢者に対する暴力等の根絶について 事務局より説明。	
委員	Ｂ評価。若年層に対する暴力の予防と啓発を図るために中学生を対象としたデートＤＶ防止講座の開催は評価できる。 児童虐待の予防に関しては保育士が気付く部分も多く、市が連携し早期発見に努めている点は評価できる。 ストーカー被害や、虐待予防のために区への情報提供や講習、防犯パトロール等による啓発を行っていけると良い。
委員	C 評価。被害を受けた際に相談に来た割合では、被害者、特に子どもは被害を受けたと感じていない場合も多く、含まれない。そのためには DV の基準を示すと気付くこともある。

委員	相談窓口周知への取組として人目に触れやすいところへの設置があると良い。
委員	評価はＢ。ＤＶ被害者の情報が守られることは良い。被害を未然に防ぐための取組が必要。
委員	現状どの程度相談できることを認知されているかが気になる。
委員	評価はＢ。被害を受けても相談できない人が半数だという中で相談窓口の周知をすることは良いが、被害を受けた際に相談した人の割合の目標値が低いと感じた。 相談しやすい風土作りが必要であり、半数の人が相談できれば良い、という空気はよくない。
委員	乳幼児期から大人まで取りこぼしのない支援体制としては整備されている。ただ、一部の管理職や教員が窓口になっており、支援体制のプロセスを理解していない現場職員により対応が遅れるケースがあることも事実。
会長	一般男性が学ぶ機会があるか。
委員	評価はＢ。ＤＶ講座を開いたとしても被害者は参加しない。また、被害者は切羽詰まらないと相談には来ない。家族の問題であり、公表されることもなく、市が介入するにも限界があり実態が掴めない。周りが分かるときにはひどい状況になっている。保護された後の生活も大変であり、元の生活に戻ってしまうことも多々ある。どのように介入すれば良いのか難しい。
会長	匿名での相談は可能か。
事務局	通報、相談の段階では守秘義務もあるため可能だと思う。
委員	市町を超えた相談もある。親族が犯罪者になるという可能性も考えると躊躇してしまう。個々のケースを把握することは難しい。
会長	市町を超えた相談に横断的に対応できるようにはできないのか。
事務局	現状把握しきれていない。
会長	他自治体でも課題が多いと聞いている。
会長	３－１では、評価はＢが７名、Ｃが２名。Ｂ評価でどうか。
３－２　地域社会における男女共同参画の推進について 事務局より説明。	
委員	評価はＢ。地域に「福祉の相談窓口」の看板を多く見かけるようになったことで気軽に相談できる体制が整ってきたが、どのような内容で相談をしたら良いか具体的事例があると分かりやすい。ひとり親家庭への支援を行っているが、利用者が少ないため、啓発した方が良い。 地域の避難所運営組織に女性参加が増えるよう、女性目線での意見を組織に反映していける職員による支援が必要。 補助金対策事業は年間通じて行っているならば、啓発期間を限定せず継続的に行った方が分かりやすい。また、補助金活用の具体例を挙げることで理解を深める働きかけにもつながる。 自治区任務の明確化と負担軽減の取組について他市町の事例を提案しつつ市からも助言をしてほしい。
委員	評価はＡ。様々な困難に応じて相談体制を整え支援をしている点は評価できる。自治区の区長は祭り関連で男性が多い印象。古き悪きになってしまっている祭り関連の重鎮の意見を自治区と切り離して考えていかない限り女性の割

	合は増えないと思う。
委員	様々な相談体制を整え、広く市民に周知する取組を行うことで自覚がない人の気付きにつながることもある。 パートナーシップ・ファミリーシップ制度のその後の取組、広域協定も周知する機会があっても良い。相談件数にはつながらなくても、制度があると知ることで安心される方も多くいる。
委員	評価はＢ。実施内容で知らないことが多く、周知不足を感じる。市報に触れる機会も減っている。市の取組を周知させるという意味でも市報の閲覧率を上げる工夫が必要。
委員	シルバー人材センターの人材確保は地域活性化にも直結するため、根本的な解決に向けて運用の見直しが必要。利用者の声を基点に必要とされる仕事を明確にし、見合った人材を募集する。具体的な募集方法で会員増も見込め、利用者増にも繋がるのではないか。幅広く枠組みを超えて協力できると良い。 持続可能に重点を置くと、一過性のイベントではなく、人と人の繋げる仕組みにお金を使うべき。
委員	評価はＢ。地域役員の女性登用や、若年層が積極的に関われるよう行政からの依頼業務、今後の区の在り方の見直しには地域活動ＩＴ化が必須。文字、動画での情報展開も効果的かと思う。
委員	人材育成は成果がすぐに出なくても大切。地域の考えを変えて行くには若年層の育成が必要。生活困窮に対し、制度の間に陥らないよう関係機関と連携し対応している点は評価できる。
会長	区長の女性登用について触れた。
委員	評価はＢ。様々な相談窓口が多いが、積極的な啓発があると良い。 民生委員の業務について明確にし、活躍を期待したい。
会長	３－２について、評価はＡが２名、Ｂが６名、Ｃが１名。 総合し、Ｂとしたい。
会長	古き悪き、とのコメントもあったが、祭りと自治会を切り離すというアイデアは面白いと感じた。
事務局	祭りと自治区を切り離すことは自治区によっては難しいのではないか。
会長	切り離すことで女性登用が増えるのではないか。
事務局	悪い面ばかりではなく、自治区イベントで祭礼関係者が手伝いをしていることも多い。
委員	区長のみ女性で下に付く方が男性ばかりでは意味がない。自治区の繋がりゆえに言いにくいことも多々ある。
会長	全国的に言えることだが、市と住人に間があるように感じる。市と住人を繋ぐ中間的な組織が重要。
事務局	半田市には地域担当職員という地域と行政を繋ぐ仕組みがある。
委員	地域担当職員は地域の会議にも参加をしている。 地域担当職員の役割を明確化し、周知させると良いのではないか。
会長	自治体と繋がるキーパーソンを知ること、中間的組織の強化、広がりを作る事も大切。
３－３　生涯を通じた心身の健康づくり 事務局より説明。	
委員	評価はＡ。母子の健康面、精神面への支援が行き届いていると感じた。がん検

	診推進事業ではこまめに対象者へ通知を行う等努力も見える。早期発見や予防に力を入れている点が特に良い。図書館入口にある認知症の啓発展示も見やすくて良い。公共施設の目に付きやすいところへの展示は他人事から自分事に捉えやすく、今後も継続してほしい。 男女共同参画の教職員、保育士向け研修に参加し、実践的に学び、考えるきっかけになった。また、若年層の人に伝える立場の人や、地域と繋がるためのキーポイントになる人以外にも、多くの人が触れる機会を持つことが大切だと感じた。
委員	評価はＡ。３歳児健診の受診率は目標値に対し、達成率は１００パーセントに近い。がん検診の告知もしっかりされている。
委員	みんなが、という視点の大切さ。性教育の説明も広い視野で考え、性別に関わらず自分らしく生きる権利を学ぶ機会になると良い。 がん検診の情報量が多すぎて分かりづらい。対象年齢、対象者以外の金額、対応病院等が一目で分かるよう、見直しをしてほしい。
委員	評価はＢ。乳がん、子宮頸がん検診の目標値が数字だけ見ると基準値より低くなっていることが気になるが、受診率をどのように取っているのか知識が無く分からなかった。無料クーポンの対象者はどのように決められているのか。また、受診しなかった理由をアンケートにて調査した結果を反映できるか。
委員	がん検診の必要性についての考え方は人それぞれではないか。がん検診自体が正しいという認識で、受診を推奨することにも疑いを感じる。過剰診断や被爆のリスク等心配されるデメリットを伝える必要があるのではないか。
事務局	メリット・デメリットの詳細に関しては担当課に確認をしなければ回答が難しい。ただ、無料クーポンを配布していることを加味すると、メリットと捉える部分が多いのと考えが予想される。
委員	医療＝身近なものではなく、最後の砦だと考えている。予防に必要なものは検診ではなく、日々の食事や運動による健康意識向上、病気にならない身体作りだと考えている。検診受診率を上げること＝成果にすることは健康作りの多様なあり方に対し反しているのでは、と疑問を感じる。予防を軸に置いたアプローチに力を入れるべきではないか。 環境パートナ―に在籍している中で、半田市内に健康器具が設置された運動ができる公園がないとの意見が出た。
委員	評価はＣ。赤ちゃんの検診受診率の高さは継続していくべき。乳がん・子宮頸がんの受診率の低さは課題だが、子宮頸がんの検診については受診対象年齢が検索する情報によって違いがあり、判断が難しい。また、会社等で受診済だと分かるような仕組みもあると正確な数字を出すことができるのではないか。仕組み不足が目標値の低い要因の一つになっていると思う。
委員	評価はＢ。市内小中学校での性教育の出前授業、命の授業では教員では不足している専門的な知識を学べてありがたい。 ただ、半田市の若年層の妊娠、望まない妊娠はゼロではなく、愛着不足が原因であることが多い。家庭の部分での根本の課題解決が必要。
委員	評価はＢ。幼少期から性について学び、自分の身体を守る・大切にするための取組が大切だと思っている。学校教育の中でも小学生から避妊方法や専門的な先生による性教育が必要。 検診についての考え方は人それぞれだが、受けたいと思った時に受けられる状態になっていることは良いこと。
会長	子宮頸がん・医療情報の説明の分かりにくさの解消として、必要な情報に応じ

	てクイック説明と詳細説明の２段階にできると良い。
委員	子宮頸がんはワクチン接種で予防できるということは感染症ということか。
会長	受けたい人が受けられる状態、が大切。医療説明を分かりやすくする必要はある。 他の自治体も参考に、検診によるリスクも追記しても良いのではないか。
委員	日々情報は更新されているため、提供した情報によって判断は個々に任せる方が良い。市としては強要をしているわけではなく、検診費用の補助がある程度。
会長	自治体としての安全策としても色々な見解があることを示しても良い。
会長	評価はＡが２人、Ｂが５名、Ｃが２名。こちらもＢ評価とする。
３．　その他 アンケートについて事務局より説明。	
会長	問１、アンケートについて男性・女性・当てはまらない３択の場合、榊原委員どのように考えるか。
委員	様々な意見もでたが、性別を当てはめたくない方もいるため、当てはまらないとした。
委員	明記しない、という選択肢の場合もある。 無回答という選択でも良いのか。
会長	男女別のクロス集計した場合、カウントされない可能性もある。 何かしらの回答があれば集計が取れるのではないか。 研究者の中でも正解がなく、世界中で複雑な問題。
委員	無作為に選ばれた方へのアンケートにしては量が多いのではないか。意識の高い人ばかりではない。無作為抽出でのアンケート回答率はどの程度か。
事務局	５年前に行った際、市民向けは３７．６％、事業者向けでは５２％。
委員	今回の返信率の目標は。
事務局	２０００名に送り、４５％。
委員	返信率を上げるための工夫は。
事務局	ＱＲコードによる回答もできるようにした。
委員	負担減という意味でアンケート量を半分にし、２種類のアンケートで倍の人数に送付するのはどうか。
事務局	集計・分析が難しい。
会長	４の倍数で組むことが基本。次回以降１２ページ程度での構成を検討してもらいたい。
事務局	国・県で行われているアンケートと比較したい意図もあり、項目数が増えてしまった。
	以上